

令和元年度自己評価結果公表シート

玉川学園幼稚園

1. 本園の教育目標

I. 子どもの心を育てること

心とはその人そのもの、あるいはその人の基本的な感性である。心が育つということは、自分を持つということである。幼稚園では、幼児にふさわしい環境と指導を通して、人間として望ましい感性や価値観を育て、幼いながらも自分自身を築くことで、今後その子が生きていく上での礎としたい。

II. よい仲間社会を育てること

幼稚園教育は集団生活を通して行うものである。子ども一人一人が集団生活のルールをわきまえながらも、自己を素直に表現することができる、幼いながらも自立した仲間社会を育てることで、社会道徳を身につけさせたい。

2. 今年度の重点目標

I 自然を題材にした表現の保育の充実をはかる

II 保育向上のため、自ら試行錯誤や創意工夫に努める

III 各学年にふさわしい生活発表会の実現をはかる

3. 重点目標の取組状況

項目	取組状況と評価
自然を題材にした表現の保育の充実をはかる	<p>① 取組状況</p> <p>本園では、身近な自然を題材にして、見たこと感じたことをその子なりに表現することを通して自己を確立していくことを目指している。今年も、園内研究会をはじめ公開保育等で研修する機会を多く設けて保育内容の向上に努めた。</p> <p>② 保護者アンケートの結果</p> <p>「子どもを本園に入園させて良かったか？」という設問に「大変良かった」「良かった」の合計が98.6%であり、高い評価を得ている。また、「本園の教育方針は理解できるか？」という設問に「大変理解できる」「理解できる」の合計が99.1%あり、よく理解されているといえる。</p> <p>③ 教員の自己評価の結果</p> <p>教員の自己評価では、可否が拮抗している。表現の保育の理念については概ね理解をしているものの、実践となると特に経験の浅い教員について充実できたとは言えないと評価が多い。一方で、園内研究会などで他クラスの保育を参考するなど積極的な取り組みも見られるので、こうしたことを通じて全体の底上げが図られている。</p>

<p>保育向上のため、自ら試行錯誤や創意工夫に努める</p>	<p>① 取組状況 本園では、身近な自然を題材にした表現の保育を実践している。日常的に園近辺の公園などに出かけて四季の自然に親しむほか、折々の生き物や草花を保育室に取り入れて子どもが愛着を持てるようにした。そうした生活の中で、子どもが感じたことや思ったことを様々な方法で表現することで、子ども一人一人の自立を促すことを目指している。</p> <p>② 教員の自己評価の結果 本園の教員は、園外保育を積極的に活用し、身近な小虫や植物などと親しみ表現活動につなげることの意識は高い。また、小動物を保育室で飼育するなどの環境構成にも努めており、子どもが日常的に生き物に親しんでいる。</p>
<p>各学年にふさわしい生活発表会の実現をはかる</p>	<p>① 取組状況 本園の生活発表会は、各学年ともに「お芝居ごっこ」に取り組んでいる。様々な表現活動を含むお芝居は、年度末に子どもの育ちを見ていただくのに最適であると考えている。子どもが考え、楽しみ、達成感の味わえる発表会になるよう取り組んでいる。</p> <p>② 保護者アンケートの結果 生活発表会を保護者に5段階評価していただいたところ、秀と優の評価の合計が84.1%であった。</p> <p>② 教員の自己評価の結果 年長組と年中組は、子どもたちが意欲的に取り組んだ作品が多かった一方、まだまだ不十分であるとの自己評価もある。今年は会場設営を変更して、より子どもの演技がよく見えるように工夫をしたことは効果があった。年少組の発表会のあり方は、毎年の課題であるが、無理をさせずに子どもが楽しい発表会になるよう努めた。</p>

4. 学校関係者の評価

玉川学園幼稚園の運営は信頼できるものであり、安心して子どもを通わせることができる。保護者からの要望事項についても改善に努めていることは評価できる。ただし、保護者への連絡や子どもへの対応について、教員によって差が見られる。経験の違いがあるのでやむを得ないが、できるだけ揃えられるように努められたい。運動会は演技構成の工夫により見やすくなった。また、今年度の運動会は天候の都合で短縮になったが、運動会ボランティアとの連携も良くスムーズな進行ができた。園のルールへの順守やマナーの向上等、保護者側も意識を高める必要がある。

5. 財務状況

公認会計士による監査において、当法人の計算書類は適正に表示されているものと認められている。

